

二宮 淳 議員

(一問一答方式)



- ①おおず買物等割引チケットについて
- ②安全な街造りにについて
- ③リチウムイオン電池の回収について
- ④肱川河口部の堆砂について
- ⑤大洲市の旧地名表記について

防犯灯、街路灯について

問 蛍光灯には水銀が含まれており、2027年末に製造・輸出が全面的に禁止される。区で管理している防犯灯のLED照明器具への交換について、どのように推進していくのか、市の考えを伺いたい。

答 本市では、平成23年7月に、それまでの地区防犯灯設置に対する補助にLED照明灯への交換を加えており、令和3年度には、防犯灯の新設、更新を問わず、LED照明器具への交換を補助の条件とし促進を図っています。

なお、防犯灯の電気代や修理代については、蛍光灯からLED照明器具への交換には一時的に経費は必要となりますが、LEDへの交換後の電気代は従来の1灯当たり月1,000円程度から200円程度へ大幅に軽減されます。

また、蛍光灯は電球の交換が3年程度で必要であり5,000円から1万円程度の費用がかかりますが、主要メーカーの公表では、LEDの光源寿命は蛍光灯の約5倍程度であり、LED照明の場合は15年程度での交換となり、維持管理経費は抑えられるものと考えています。

現在交換の進んでいない地区の皆様においては、予算に限りのある市の補助制度ですが、計画的に御活用いただき、LED照明器具への交換を図っていただきたいと考えています。

リチウムイオン電池の回収について

問 リチウムイオンバッテリーは、資源としての価値も高いことから、市民が正しく回収に協力できるよう、回収ルールや市の窓口での取扱いをもっと積極的にPRすべきではないか。

答 本市におけるリチウムイオン電池の回収ルール

は、原則として、小型充電式電池の回収、再資源化を推進する一般社団法人JBRCの協力店舗であるヤマダ電機やケースデンキほか、市内の7店舗への持込みによる回収をお願いしています。

しかし、変形、膨張したものなど、協力店舗などで回収できないリチウムイオン電池については、家庭ごみへの混入による発火トラブルを防ぐため専用の回収ボックスを設置し、現在は、本庁環境生活課のほか、長浜、肱川、河辺の各支所窓口で直接お預かりする体制を取っていますが、適切な分別方法や市窓口での回収対応など、市民の皆様への周知がいまだ十分でないという現状を真摯に受け止めています。

リチウムイオン電池が家庭ごみに誤って排出されると、ごみ収集車や処理施設で大規模な火災を引き起こす危険性が極めて高いため、今後は広報おおずや市公式ホームページなどによる啓発だけでなく、毎年発行している家庭ごみ7種分別表や、分別に迷った際に利用されているごみ分別辞典の改定に合わせて、モバイルバッテリーや加熱式たばこなど、電池内蔵製品の具体例をイラストや図解を用いて視覚的に分かりやすく表現するなど、直感的にも理解していただけるよう情報発信の強化に努めていきます。

肱川河口部の堆砂について

問 肱川全体で堆砂が進んでおり、特に河口部での砂の溜まりは異常なほどである。水の出口を砂で盛れば洪水の危険が高まると考えるがいかがか。

答 肱川河口部の堆砂については、河口に砂が堆積し閉塞するような状態であれば、洪水が吐けにくくなり浸水被害等の危険性が高まると考えられます。このため河川管理者は、河川維持管理計画に基づき河川の状態を適正に管理するよう努められています。

大洲河川国道事務所が策定した河川維持管理計画では、砂州の標高が2.53メートル以上になれば撤去することとされていますが、本年3月の測量結果では1.76メートルとなっています。現在の状況においても河口部の流下能力は確保できていますが、洪水の流下に支障が生じないよう、巡視による目視調査及び高さ測定を実施し、状況により適宜河道の維持管理に必要な掘削を実施すると聞いています。